

## 地域の医療をどのように支えていくのか

# 病院経営を見据えながら

# 地方独立行政法人 奈良県立病院機構



新型コロナウイルスの感染拡大で日本の医療は危機的な事態に陥りました。これからは地域医療をどのように支えていけばいいのか。長年、医療の質や安全の問題にかかわり、行政法人・奈良県立病院機構の上田裕一・理事長に奈良県の地域医療の課題についてお聞きしました。(聞き手・池田知隆)

(6月3日現在)はいかがですか。

奈良県でも4月中旬からのコロナの第4波が押し寄せ、発症後の病状悪化のスピードが早く、一時は病院に感染患者を受け入れきれませんでした。奈良県では自宅やホテルで待機していただいた方が約500人に達した時もちらりと見ました。その後、皆自粛蔓延防止法を遵守して活動するようになりました。

——県内の感染をめぐって特徴的なことは、奈良県の感染の規模は、大阪府の10分の1くらいで連動しています。奈良県に住みながこ大阪に通勤、通学している人が多く、大阪府の感染拡大の影響が避けられません。3世代同居の家庭が多く、家族内感染が目立つまじで連動しています。

分以内に到着でき医師が治療できる体制ですが、県総合医療センターはヘリポートを設けて対応し収容しています。災害対応も含めて、20年後、30年後を見据えた、まさに奈良県北部の基幹の病院になっています。

況ですが、病院スタッフからは、幸いにも配置転換や退職希望はまつたくありません。この3～5月に 29名の重症の患者さんを治療して、死亡例はわずか1例です。このほか、一般の予定入院患者さんにはPCR検査で陰性を確認後に入院してもらうなど、完全防護体制(フラン

其をあしらひしがその後宿泊費等が請求せば却て

居の家庭も多く、専門的な問題が少しあります。

二〇一九年六月三十日  
新潟県に独立してから二〇二〇年六月三十日まで

翻訳後に入力してもらつたと  
陽内辰次（マニ）

合医療センター、県西和医療センター、県総合リハビリテーションセンターの3医療施設と医療専門職教育研修センター、看護専門学科に運営。2014年に設立され、それまで県内で不足していた7領域(救急医療、周産期医療、専門的ながん医療、小児医療、糖尿病治療、掲げ、病院・診療所間、在宅医療や地域包括ケアシステムとも緊密な連携を進め、奈良県内の地域医療の中核機能を果たしている。

○奈良県立病院機構／県総合医療センター、県西和医療センター、県総合リハビリテーションセンターの3医療施設と医療専門職教育研修センター、看護専門学校の2教育研修施設を一体的に運営。2014年に設立され、それまで県内で不足していた7領域(救急医療、周産期医療、専門的ながん医療、小児医療、糖尿病治療、精神医療、災害医療)の改善を掲げ、病院・診療所間、在宅医療や地域包括ケアシステムとも緊密な連携を進め、奈良県内の地域医療の中枢機能を果たしている。

——そもそもどうして  
医師の道に。  
(天王寺)3年の秋、坦

予想もしなかつた大学教授に採用され驚きました。

利害関係が少ないと、調査委員会の委員長に指名されました。その事故調査委員会では個人の過失に注目するのではなく、種々の要因を分析（根本原因分析）し、複数の再発防止策を提言しました。当時としては、画

大阪線とけいはんな線・大阪メトロ)、JR(大和路線)で結ばれており、その沿線では感染が広がりました。無症状の通勤者や若い人たちから家族に拡大し、県総合医療センターにも家族(乳児から高齢者)2~4人全員が入院されました。

置していましたが、さらに二つの病棟をコロナ患者用にあてました。広い駐車場敷地に感染者の検査待機用のプレハブを設置、ドライバスルーチーム(DMAT)が対応しました。まさに新

期的な調査への取り組み、提言の内容であり、大きく注目されました。

その後、毎年のように医療事故の調査に委員として参画を求められることになりました。中でも、2014年に明らかになった群馬

大学医学部附属病院で腹腔鏡による肝臓切除手術を受けた患者8人が相次いで死亡してい事故では、大学病院の対応が大きく注目されました。2015年春には事故調査委員会報告書が公開されたのですが、「過失がある」との追加の記述が問題となり、1ヶ月後には再調査が決定されました。

しかし、関東地区では調査委員会の委員長を引き受けた人がなかつたようで、遠方の私に委員長の打診があつたのです。そこで、完全に大学病院とは独立した外部委員のみの調査委員会を組織して、1年間をかけて調査を行いました。日本外科学会の多大な支援を得て大学のHPに現在も公開されています。

一般に医療事故が発生した際には、病院側は上手に説明して患者さんや家族に納得してもらおうとしがちです。また、院内では死亡の事実を知りながら、診療科を超えて意見をいふことはほとんどありません。群馬大学のケースも病院内の管理体制のもとでは、数年間、問題とは認識していませんでした。しかし、調査をしてみると、麻酔科、集中治療医や看護師も手術の合併症についてはよく知つ

ていたのです。しかし、大学病院の旧来の風土では「知りながら害を及ぼす」を実行することは、難しいのだと思いました。

——これからの病院の運営は。



大幅な拡充があつてのことです。

外来の診療室も診療科別に固定するのではなく(婦人科や耳鼻咽喉科、眼科、口腔外科など)特別に機器が必要なところを除く)、日によつて流動的に運用しています。

患者さんには、呼び出し用タブレット端末を持ついただき、診察時間が来るまで館内を自由に動くことができます。診療室前で長い時間、じつと待つ必要はありません。ですから、館内への呼び出し放送はありません。

旧来の枠を超え、21世紀型の新しい医療を提供し、地域の人たちに信頼され、愛される病院にしたいと思っています。

——これまでを振り返つて思われることは。

神戸大学を卒業後、医局に入らず、当時はア

ウトサイダー、マイノリティーの道を私は選択しましたが、常に周りの多くの人に支えられて、ここまで来られました。市中病院での勤務経験しかない私を大学教授に選んでもらい、さらに、日本胸部外科学会会長、日本心臓血管外科学会理事長など、幾つかの学会で重責を担うことになりました。

振り返れば、私たちはマジョリティーばかりを見がちですが、社会を変えるのはいつの時代でもマイノリティーなのだと思います。

意欲ある若い医師たちや医療専門職の育成にも取り組んでいきたいですね。

## 上田 裕一理事長の経歴

専門領域、心臓血管外科、患者安全・医療の質。名古屋大学名誉教授

- |          |  |
|----------|--|
| 1951年11月 | 奈良県生まれ。  |
| 1976年3月  | 神戸大学医学部卒業  |
| 1976年5月  | 財団法人天理よろづ相談所病院<br>(ジュニアレジデント)  |
| 1978年5月  | 同 心臓血管外科<br>(シニアレジデント)   |
| 1985年4月  | National Heart Hospital (London), Registrar,<br>Department of Surgery(英国国立心臓病院 外科医員) |
| 1986年4月  | 財団法人天理よろづ相談所病院心臓血管外科医員に復職後、同副部長、部長   |
| 1996年4月  | 京都大学医学部臨床教授称号付与。   |
| 1999年8月  | 名古屋大学医学部胸部外科学講座教授、その後、心臓外科学教授など歴任。   |
| 2012年1月  | 公益財団法人天理よろづ相談所病院院長・医学研究所長  |
| 2013年9月  | 奈良県医療政策参与(～2014年3月31日)   |
| 2014年4月  | (地独法)奈良県立病院機構奈良県総合医療センター総長   |
| 2018年4月  | (同)奈良県立病院機構理事長   |